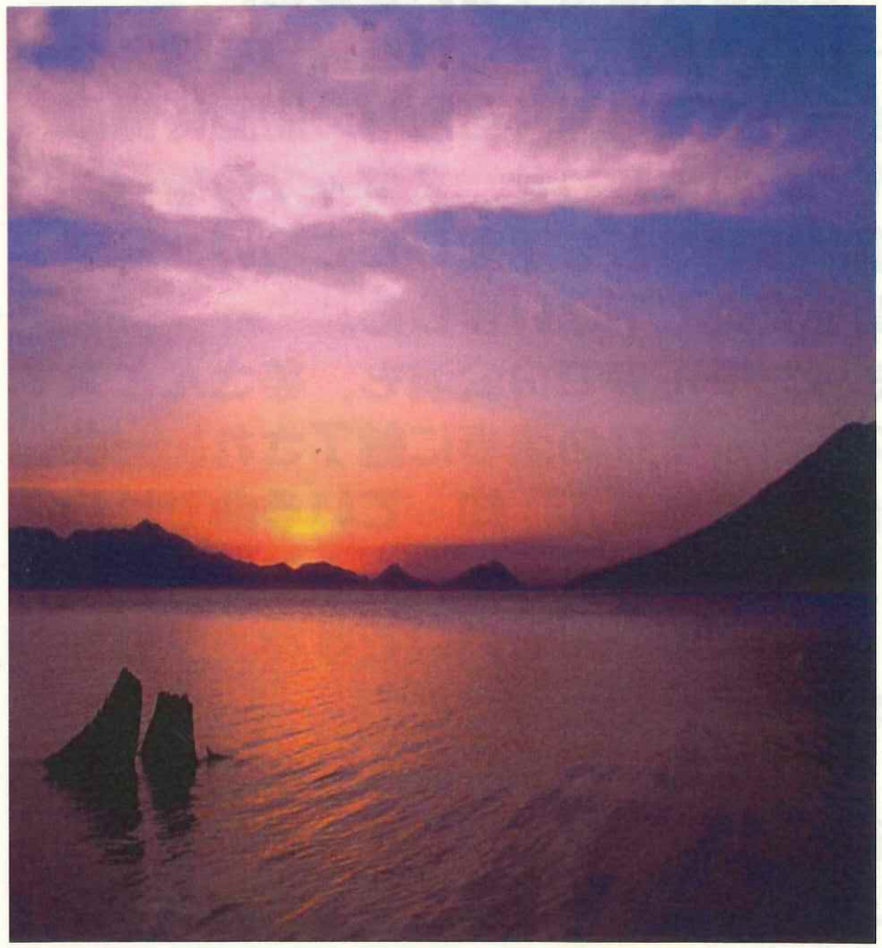
SENSHOJI
YUKARI NEWSLETTER
1994−2023

ゆかり通信
VOL.305
令和５年６月

北海道千歳市清水町1-14　鶴寶山 千正寺
TEL:0123-23-2442　FAX:0123-24-9883
ホームページ http://sensho-ji.net/　フェイスブック @Senshoji

2023年千正寺カレンダー　６月の言葉



支笏湖の夜明け

わたし「が」仏教「を」学ぶのではなく、
仏教「に」わたし「を」学ぶ
（信国淳氏）

「お坊さんには、どうしたらなれるの」と質問を受けることがあります。

その答えは一つでなく、それぞれの宗旨宗派で異なっていて私たち浄土真宗本願寺派では、次の通りで得度（僧籍を授かること）ができます。それは京都のご本山で得度習礼（とくどしゅらい）という、１１日間の研修を受けることで僧侶としての資格を得る事ができますが、その研修に参加するのに許可が必要で、特定の教育機関で必要な単位を取得するか、研修に参加するための試験に合格しなければなりません。 私は京都の龍谷大学に入学し、単位を取り得度習礼を受け僧侶となりました。僧侶になっても、住職になるには「教師」という資格、勤行の指導員になるには「勤式指導所」に１年、布教使になるには「住職課程の研修」１００日という、いろいろな資格があります。

私は２７歳の時に布教使になりたいと思い、住職課程の研修を受けました。京都の伝道院という施設に１００日間寝泊まりし、教義や布教の勉強をしました。毎日夜遅くまで同じ寮生と教義について語り合い、仏教を学ぶことに必死でした。その時どうしても分からなかったのが「阿弥陀様の救い」です。私自身、阿弥陀様に救われたという実感がなく、どうしたら分かるのだろうと悩み続けました。残念ながら伝道院１００日の生活のなかでは解決することは出来ませんでした、

その後、お寺に帰ってからの生活で、布教使様のご法話を聞いたり、研修会に参加する中にその問題が解決して行きました。親鸞聖人のご和讃に「煩悩にまなこさえられて　摂取の光明みざれども　大悲ものうきことなくて　つねにわが身をてらすなり」（『高僧和讃』「源信讃」）という和讃があります。意訳すると「煩悩によって私は阿弥陀様の救いを知ることも分かることもできないが、阿弥陀様は決して私のことを見捨てることなく救い取ってくださっている。」私が阿弥陀様のことを分からなくても、阿弥陀様は私のことを知り抜いてくださっている。と親鸞聖人は阿弥陀様の救いを喜ばれておられます。

今月の言葉は、主語の転換を教えてくださっています。ですから阿弥陀様の救いにおいても、「私が阿弥陀様のことを分かる」のではなく、「阿弥陀様が私のことを分かってくださっている。」。浄土真宗の教えは主語（主体）は阿弥陀様であり、客体が私たちなのです。

（文：鹿谷賢純法務員）